



北陸地域の概要（2022年2月調査）

一般財団法人 北陸経済研究所
地域開発調査部 研究員 吉田聡子

景気の現状判断 家計動向は感染拡大と降雪、企業動向はコスト高で厳しい状況が続く

現状判断指数(DI)は前月から3.4ポイント下落の35.3となった。家計動向では、「まん延防止等重点措置が延長されたため、回復の兆しがみえなくなっている。取引先の飲食店では昼だけ営業していたが、昼の営業もやめてしまっている。まん延防止等重点措置が解除されたとしても、どの程度回復するのか不安しかない（一般小売店〔鮮魚〕）」、「新型コロナウイルス新規感染者数の急増と大雪の影響というダブルパンチで来客数が減少し、売上は前年1月以来の大幅マイナスの見通しである（百貨店）」と厳しい声が目立つ。これまで比較的順調に推移していた企業動向でも「外国人技能実習生を中心とした人手不足や原材料価格の高騰による収益圧迫を課題に挙げる企業が増加している（繊維工業）」、「半導体不足や世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による輸送遅延、原材料の価格高騰等で、引き続き厳しい状況が続いている（プラスチック製品製造業）」と課題を指摘する声が多い。

景気の先行き判断 山積する課題にウクライナ情勢が追い打ちをかけ、先行きDI値は低水準

2~3か月先を占う先行き判断指数(DI)は0.9ポイント上昇の39.4となったが、依然として低い数値である。「これから春に向けて、新生活に必要な物の購入が増えることを期待している（一般小売店〔事務用品〕）」、「3月はまん延防止等重点措置期間が明け、春に向けて各種行事で人が動き、消費が多くなる時期であることから、2月よりは確実に外食需要が高くなる（一般レストラン）」と期待する声がある一方、「感染状況は一進一退、ウクライナ情勢から原材料不足もますます深刻になりそうで、商品や部品の納期や供給に更に遅れが出そうな状況である（通信会社）」、「新規感染者数が高止まりしており、飲食や観光関連産業が伸び悩んでいる。原油や原材料価格の上昇が企業収益を圧迫している。価格転嫁の動きもあるが、消費意欲の低下につながるおそれがある。ウクライナ情勢も不透明で、ロシアや欧州向けのビジネスに影響が出る可能性がある（金融業）」と不安材料が多い状況である。

図1 景気の現状指数(DI)の推移[季節調整値]

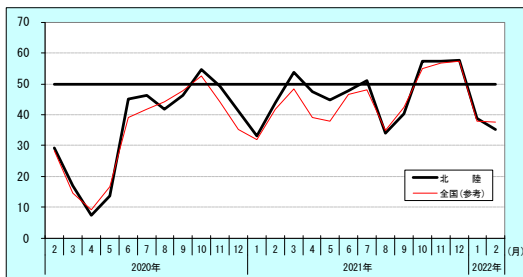
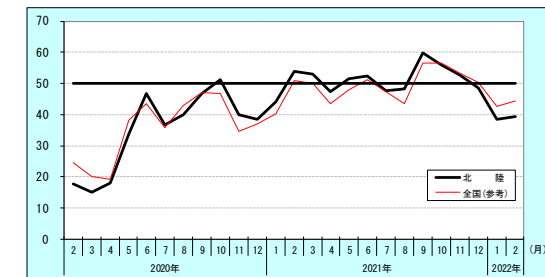


図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



●2月のアンケート内容

調査期間：2022年2月25～28日

調査対象：合計100名（うち回答者90名）

- （内訳）
- ・家計動向関連
- ・企業動向関連
- ・雇用関連

●景気の判断指数（DI）の算出方法

景気の現状や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。（良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0）DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。

〈景気の現状に対する判断理由（3カ月前と比較して）〉

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・高額品の購入が増え、来客数も少しずつ増えてきている。とはいえ売上は前年よりは良いが、新型コロナウイルス発生前の50%未満である。
	○	スーパー（統括）	販売量の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、内食需要が高まっている。
	○	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・キャンペーンやWebからの問合せが増えており、相談件数も増加している。受注高も計画を達成している。
	□	スーパー（総務担当）	単価の動き	・商品価格が上がり、以前にも増して特売商品のみを買う客が多い。
	□	家電量販店（店長）	販売量の動き	・北京オリンピック開催による映像商品の動きに期待したが、特に販売量などは変わっていない。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・公共施設で今年もイベントを開催したが、販売量も来場者数も前年よりやや少なくなっている。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・前月同様に受注は堅調だが、自動車の生産遅れによる納期の長期化により、今期決算には収益を反映できない見通しとなっている。
	□	通信会社（職員）	販売量の動き	・広告宣伝費をいつも以上にかけても、新商品の売行きが伸びない。
	□	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・4月からの更なる資材値上げを客が認識始めており、景気が上向く気配はない。現状は横ばいが続いており、急激に大きく動く気配はまだ感じられない。
	▲	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・全体をみると豚肉やとり肉の動きは良いが、ギフト等が少ないこともあり、牛肉の動きが良くないため苦戦している。
	▲	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・値上がりしているものが多く、客の動きに買い控えがみられる。
	▲	衣料品専門店（経営者）	それ以外	・新型コロナウイルスの感染はまだ拡大しており、生活必需品の価格は上昇し続けている。消費にとってマイナス要因が多い。
	▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株による新規感染者数の急増で、目に見えて人流は減っている。さらに、旅行などの自粛による影響で、目的買いによる洋服の売上などは全く回復していない。
	▲	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	お客様の様子	・新型コロナウイルスオミクロン株による県内の感染者数が急増しており、子供から高齢者まで会員に感染関係者が出ている。また、クラスターは発生していないが、複数のスタッフが休まなくてはならない状況になってきている。このような状況下で、利用控えや休会が多く発生している。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・2月に入り新型コロナウイルスオミクロン株による感染が急拡大し、ここ1年では最も来客数が減少している。特に学校で子供の新規感染者数が増えており、その関連で親が仕事を休むこともかなりあるようで、それも来客数減少の一因となっている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・地方でも毎日多数の新規感染者が出ていて、街中の人流は激減している。特に高齢者の姿が消えている。正に危機的状況である。
	×	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が延長されたため、回復の兆しが見えなくなっている。取引先の飲食店では昼だけ営業していたが、昼の営業もやめてしまっている。まん延防止等重点措置が解除されたとしても、どの程度回復するのか不安しかない。
	×	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数の急増と大雪の影響というダブルパンチで来客数が減少し、売上は前年1月以来の大幅マイナスの見通しである。近年右肩上がりで推移していたバレンタイン商戦もにぎわいがなく、会場は閑散とした状況で前年割れしている。
	×	住関連専門店（役員）	来客数の動き	・降雪などの季節要因や、新型コロナウイルス第6波による影響は否めないが、一方では家具の購入に対する考え方や市場性など、業界全体に関わる動きも影響している。
×	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・前月27日から今月20日までまん延防止等重点措置が適用されたが、3月6日まで延長となり、集客は前年の7割ほど、例年の3割まで落ち込んでいる。	

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・経験したことのない最悪の状況で、来客数は前年同月の6割となっている。当店の客は年齢層が高く、孫などに新型コロナウイルスの感染が広がっている状態では外出できない。この状況が続くとお手上げである。
	×	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年との比較では売上は274%となっているが、新型コロナウイルス発生前との比較では70%と、まだ苦しい状況が続いている。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が延長されたため、宿泊部門、宴会部門、レストラン部門共に悪かった前年を更に下回っている。
	×	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・新規感染者数が過去最高を更新するなか、前月に続き稼働率は減少傾向にある。しかし、2月中旬以降は降雪による受験生の前泊利用者が増加し、稼働率の下降に歯止めを掛ける結果となっている。
	×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響で宿泊予約がほぼない。出張手配もほぼキャンセルとなっている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・第6波による感染急拡大で、相変わらず人の動きが悪い。
企業 動向 関連	◎	-	-	-
	○	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・年始当初より受注量が増加し、年度末を迎えても非常に活発に推移している。特に事務関連機器の設備投資が旺盛である。
	□	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染の急拡大で高止まっている感じがあるが、その影響かテイクアウト需要向けの受注が相変わらず好調で、ここ数か月伸長し続けている。
	□	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・半導体不足や世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による輸送遅延、原材料の価格高騰等で、引き続き厳しい状況が続いている。
	□	司法書士	取引先の様子	・新築住宅の所有権保存登記の依頼は堅調であるが、材料費の高騰や器具類の不足による完成遅れなど不安な要素が続いている。
	□	税理士（所長）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症が終息しておらず、原材料価格の値上がりや半導体の調達ができないことで、電子部品関連の工場が操業を縮小している。以前と比べてもなかなか良い要素は見当たらず、状況は変わらないと考える。
	▲	繊維工業（総括）	受注価格や販売価格の動き	・企業や用途によってばらつきがあるものの、受注は全体としては回復基調にあり、新型コロナウイルス発生前の水準に回復している企業もある。ただし、外国人技能実習生を中心とした人手不足や原材料価格の高騰による収益圧迫を課題に挙げる企業が増加している。
	▲	輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染拡大のため、1月中旬以降は物量が減少している。
	×	輸送業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・ロシアのウクライナ侵攻による燃料価格の高騰を懸念している。
×	金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先の様子では、新型コロナウイルスオミクロン株の影響が長引いているところに、原油価格の上昇が加わり、売上、利益共に減少が続いている。新規設備や人材採用に資金の振り分けができておらず、景気が上向きになる話が出てこない。	
雇用 関連	◎	-	-	-
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ほとんどの産業で求人数は上向きとなっている。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人数が増えないのは、第6波による新規感染者数の急増で、新型コロナウイルスの終息がみえないことが大きい。それに加えて、原油や材料の価格高騰による先行き不安も悪材料である。
	▲	新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルスに積雪と悪い状況が重なり、上昇する気配がない。各企業は二の足を踏んでいるようである。
	×	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・宿泊業、飲食サービス業が元に戻らない。

〈景気の先行き（2、3カ月後）に対する判断理由〉

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	◎	一般レストラン（統括）	・3月はまん延防止等重点措置期間が明け、春に向けて各種行事で人が動き、消費が多くなる時期であることから、2月よりは確実に外食需要が高くなるとみている。
	○	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・これから春に向けて、新生活に必要な物の購入が増えることを期待している。
	○	タクシー運転手	・数多くの人が3回目のワクチンを接種し、新規感染者数が減少していくとみられ、現在より良くなると考える。
	○	通信会社（営業担当）	・他社からの乗換え客に対して価格競争が始まっており、客の購買意欲が高まっていることから、販売台数も増加してくると考える。
	□	商店街（代表者）	・若者世代を中心に観光客は増え始めたが、まん延防止等重点措置が解除されない限り、本格的な回復には程遠い。また、前解除された際には商店街で買物クーポンによる支援があったが、当店で使う人はいなかった。Go To Travelキャンペーンの開始を望んでいる。
	□	百貨店（売場主任）	・ロシアのウクライナ侵攻により世界経済にどのくらいの影響が出るのか見通せない。また、2～3か月先では3回目のワクチン接種が進んでいるとは考えにくいので、国内経済の景気回復にはしばらく時間が掛かると見込んでいる。
	□	百貨店（販売担当）	・来客数は大幅に改善しないと予測しているが、新型コロナウイルスへの慣れと感染の軽症化傾向でやや安心感があるため、大幅に悪化もしないとみている。入社式や卒業式などの式典が通常開催されることや、それに伴うギフト需要の拡大で、新入学、フレッシュャーズなどのモチベーション需要は前年より拡大傾向を見込んでいる。根拠としては、食催事などにおける来客数の減少が少なかったからである。しかし、売上は改善傾向にならず、厳しい状況のまま現状維持がしばらく続くともみている。
	□	衣料品専門店（経営者）	・社会の消費動向次第だと考える。
	□	乗用車販売店（従業員）	・今冬は大雪の日が続き、しかも、新型コロナウイルス新規感染者数の増加もあり、来客数がかなり落ち込んでいる。
	□	住関連専門店（役員）	・海外からの商品や部材の入荷遅れ、ウッドショックによる原価高騰、ガソリン等生活用品や食品の値上げなど、プラスに動く要素がなく、打破する施策も講じきれしていない。
	□	その他専門店〔酒〕（経営者）	・ロシアのウクライナ侵攻や継続する原油価格の高騰などの世界情勢により、国内の物価は上昇し続けている。いろいろなものの価格が上昇している状態で良くなるはずはないが、先行きは変わらないと希望的観測をしている。
	□	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大のピークがみえず、長引くことを懸念している。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	・まん延防止等重点措置が早く解除され、新型コロナウイルスの終息がみえてくるまでは、旅行も宴会もレストランも新型コロナウイルス発生前には戻らない。新型コロナウイルスの発生から3年目になり、厳しい状況である。
	□	テーマパーク（役員）	・現状のように、新型コロナウイルスの感染拡大で人流を止めるような政策を繰り返している限り、状況はさほど大きく変わらないと考える。
	□	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスオミクロン株の亜種が国内で検出されたほか、ウクライナ問題の報道もあり、先行きに明るい希望が持たなくなっている。
	□	住宅販売会社（従業員）	・2月に予定していたイベントは全て中止となり、新規の見込み客は少ない。商談については、展示場やショールームをいかに早く案内できるかで、少ない見込み客の契約が進むかが決まってくる。新型コロナウイルスの影響はまだ大きく、予定どおりに契約は進まないともみている。
	□	住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着かない限り、景気回復は難しいと考える。
	▲	スーパー（総務担当）	・商品の価格高騰が止まらない状態で、利益が取りにくい状況になってくる。
	▲	スーパー（仕入担当）	・値上げが続き、競合店との価格競争に巻き込まれると、今後も買上点数の減少による売上減少が進むと考える。
▲	スーパー（統括）	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染の収束状況次第である。	
▲	乗用車販売店（役員）	・新たな変異株の出現による感染拡大の長期化や、ロシアのウクライナ侵攻による世界経済の混乱を予想する。国内においても原油価格の高騰による各種値上げが続き、消費が更に冷え込んでいくことを懸念する。	

(－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない)

景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
▲	通信会社（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況は一進一退、ウクライナ情勢から原材料不足もますます深刻になりそうで、商品や部品の納期や供給に更に遅れが出そうな状況である。
▲	通信会社（役員）	・半導体不足による通信用端末の供給が滞り始めることが予想されており、営業活動に制限が出てくる可能性がある。
▲	パチンコ店（経理）	・ロシアのウクライナへの侵攻により情勢不安となり、物価が上昇し景気が悪くなるとみている。
▲	住宅販売会社（営業）	・ガソリンの高値維持やウッドショックを始めとした建築資材の高騰による景気への影響は避けられない。消費マインドを刺激するような対策がない限り、景気の落ち込みは避けられないと考える。
×	スーパー（店長）	・賃金が上がらないなか、食品を含め値上げが実施されれば景気は悪化すると考える。当地域では新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりが続いており、スーパーとしてはプラスに動く面もあるが、全体としては悪い状況が続く。
×	衣料品専門店（経営者）	・消費へのマイナス要因はほかにも金利の上昇が考えられる。
×	タクシー運転手	・現在、小学生等の低年齢層に新型コロナウイルスの感染が拡大していることから、その親や兄弟も外出できなくなっている。
◎	－	－
○	建設業（経営者）	・5月下旬には新型コロナウイルスの感染も収まるとみており、業界団体の総会と懇親会を開催する予定である。
○	輸送業（管理会計担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株による感染がピークアウトし、物量の回復を見込んでいる。
○	不動産業（経営者）	・客の話では、現状に新型コロナウイルスの感染が影響しているのであれば、少しずつ回復してくるだろうという前向きな考えが出てきているようである。
□	通信業（営業）	・現状の好調な設備投資は4月末まで継続すると推測している。しかし、半導体不足の影響により、受注は増加するものの納品までに至らないことを不安視している。
□	金融業（融資担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており、飲食や観光関連産業が伸び悩んでいる。原油や原材料価格の上昇が企業収益を圧迫している。価格転嫁の動きもあるが、消費意欲の低下につながるおそれがある。ウクライナ情勢も不透明で、ロシアや欧州向けのビジネスに影響が出る可能性がある。
▲	食料品製造業（経営企画）	・受注や販売は好調だが、それに応えるための労働力の確保と同時に原材料や燃料コストの上昇など、台所事情は悪化し続けている。
▲	繊維工業（総括）	・外国人技能実習生を中心とした人手不足や原材料価格の高騰に更に拍車がかかることへの懸念に加え、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大とウクライナ情勢悪化による影響を懸念している。
▲	プラスチック製品製造業（企画担当）	・日本を含む世界的な新型コロナウイルスオミクロン株による感染拡大、及び海外の政情不安なども重なり、景気はなかなか本格的に回復しないと考える。
▲	精密機械器具製造業（役員）	・水準としては現在はそこそこである。ただし、例年であれば春先に向け売上が伸びていく時期にもかかわらず、新型コロナウイルスによる感染のピークアウトの状況やウクライナ侵攻の間接的な影響の不透明さもあり、どちらかといえば負の要素が強いと考える。
▲	建設業（役員）	・依然として原材料価格が先行き不透明であることに加え、新型コロナウイルスの感染収束がみえず、世界情勢も不安定である。
×	輸送業（役員）	・世界情勢不安のため、悪くなる。
×	金融業（融資担当）	・新型コロナウイルスオミクロン株、資源価格の高騰に加えてロシアのウクライナ侵攻が始まり、動向の注視が必要である。
◎	－	－
○	新聞社〔求人広告〕（営業）	・新型コロナウイルス次第の面はあるが、各企業に意欲はあるように感じるので、期待している。
○	職業安定所（職員）	・ワクチン接種が進めば新型コロナウイルスの感染状況は少し落ち着く。しかし、ゴールデンウィーク明けにはまた世の中は混乱すると考える。ロシアの動きによるガソリン価格の状況次第だが、若干良くなるとみている。
□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・県内での新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、先行きが見通せない。
▲	－	－
×	－	－